

神戸校区 地区防災計画

令和 4 年 4 月

神戸校区自主防災会



目 次

- 1 計画の目的・基本的な考え方
- 2 計画の位置付け
 - (1) 計画対象地区
 - (2) 計画策定主体
- 3 地区の特性と予想される災害
 - (1) 地区の特性
 - (2) 予想される災害
- 4 自主防災会の活動(平常時・災害時)
 - (1) 平常時の取組
 - (2) 災害時の取組
 - (3) 要支援者(避難行動要支援者)等への支援
- 5 防災体制
 - (1) 防災体制
 - (2) 活動体制
 - (3) 避難防災関連施設
 - (4) 防災備品等
- 6 災害への備え
 - (1) 防災知識の習得
 - (2) 防災訓練の実施
 - (3) 防災備品等の点検
 - (4) 計画の見直し
- 7 防災マップ
- 8 資料一覧

1-1 計画の目的

この計画は、神戸校区に係わる災害対策について定め、これを推進することにより神戸校区住民の生命、身体及び財産を災害から守ることを目的とする。

また、災害対策においては、神戸校区住民と市、防災関係機関、神戸校区内各自治会と相互に連携し、それぞれが役割を分担し、協力して防災活動に積極的に取り組む必要性から、この計画に基づき災害等による被害の防止及び軽減を図るための備えをより一層充実するべく、地区防災計画を作成する。

1-2 基本的な考え方

南海トラフ地震の発生確率は今後30年以内で70～80%、最悪の場合、地震や津波による県内の死者は約1万6000人、西条市では約3500人に上ると想定されている。広い地域で地震・津波による家屋の倒壊や、ライフラインの停止等により多くの方が避難生活を余儀なくされるかもしれません。

阪神・淡路大震災では、家屋倒壊などに巻き込まれながら助かった人の約98%が自力や地域の人たちの力で助かっています。災害時の公的機関による「公助」には限界があり、まず自分と家族を守る「自助」、その後に地域ぐるみで救助活動や避難所運営を行う「共助」が大切。少子高齢化が進むいま、「共助」の役割が特に必要とされている。

「共助」の担い手となるのが小学校区を単位に組織されている自主防災組織であり、神戸校区内各自治会やボランティア、企業などとも連携してともに支え助け合うことが重要である。神戸地域においては、「自分たちの地域は自分たちで守る」という強い信念のもと、地域のみんで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めていく。

自主防災組織の役割		
平常時	防災組織の普及・啓発	災害に備えるための活動を行う
	地域内の安全点検	
	防災機材の点検、食料等の備蓄	
	防災訓練の実施	
災害時	情報収集・伝達	人命を守り、被害の拡大を防ぐための行動を行う
	初期消火	
	救出・救助、救護活動	
	避難誘導	
	避難所の開設・運営	

2 計画の位置付け

(1) 計画対象地区

この計画の対象地区は「神戸校区」とする。

(2) 計画策定主体

神戸校区自主防災会

3 地区の特性と予想される災害

(1) 地区の特性

(ア) 地区の概況

- ・神戸校区内の人口及び世帯数は、令和4年4月1日現在で約1,500世帯、約3,500人です。
- ・神戸校区では、人口は近年減少状況にあり、令和4年4月1日現在では65歳以上の高齢者人口が占める割合は約36%と高齢化が進んでいます。

(イ) 地区の気象・地形・土地利用

- ・神戸校区の気象状況は、瀬戸内海地方の温暖な気候に恵まれており、北側に広がる広大な農地では、裸麦、米、玉ねぎやキャベツ等の野菜が数多く栽培されている。また、概ね予讃線から南側は、予讃線から山際まで住宅地域が密接して広がっている。
- ・神戸校区の南側は山岳地帯からなり、そこに中央構造線が走り、やや南寄りの住宅地域には岡村断層も横切っており、2本の断層に囲まれた地域でもある。(13ページ参照)

(2) 予想される災害

(ア) 地震による被害

- ・家屋倒壊や火災
- ・山間部斜面の土砂・がけ崩れによる家屋倒壊、道路通行止
- ・塀の倒壊による道路通行止

(イ) 大雨や台風による被害

- ・加茂川の氾濫や堤防の決壊
- ・神戸中心地の低地地域での家屋への浸水
- ・神戸中心地の低地地域での道路冠水による通行止

(ウ) 土砂災害による被害

- ・山間部斜面の土砂・がけ崩れによる家屋倒壊、道路通行止
- ・山間部斜面の土砂・がけ崩れによる家屋の孤立化

4 自主防災会の活動

地区居住者等が、災害時において実際に地区防災計画に規定した行動が行えるよう、防災知識の普及啓発や毎年、様々な状況を想定した訓練を行うことが重要です。

(1) 平常時の取組

(ア) 防災知識の普及・啓発

「共助」による防災活動を促進するためには、地域に住む一人ひとりの防災意識を高め、地域コミュニティ全体で防災に取り組むことが地域防災力の向上につながります。

普及啓発活動は、地域の誰もが楽しんで防災に向き合い、学ぶことができることを考慮した次のような取り組みを行います。

- ・クロスロードゲーム
- ・DIG（災害図上訓練）
- ・HUG（避難所運営ゲーム）
- ・防災運動会（担架リレー、バケツリレー、土のう積みリレー、防災クイズ等）

(イ) 地域・家庭の安全意識の向上

- ・危険場所・防災上問題箇所の洗い出しを行う。
- ・家庭における家具転倒防止の器具の取り付け等家庭内存在危険個所の排除と対策の導入を行う。
- ・避難時の電気器具（電源切断、ブレーカー等通電災害対策）、ガス器具の対応の習熟を行う。
- ・要避難者、要介護者の把握と支援、常日頃からの対象者、近隣住民との意思疎通、コミュニケーションの確立を図る。
- ・民生児童委員とも連携して、自宅生活不可能者の避難者名簿への登録支援を行う。

(ウ) 防災用品の整備

- ・防災資機材の必要性の認識と意識の高揚を図る。
- ・各自治会での防災資機材の整備・強化と点検・使用方法の習熟を行う。
- ・各家庭における非常用備蓄品の必要性の向上と具体化の推進を行う。
- ・「無事ですカード」の活用定着化を図る。
- ・災害情報を取得するための資機材（ラジオ等）の整備を行う。

(エ) 防災訓練

- ・防災訓練は緊急時における「的確に対応するための必須の活動」である事の認識をもつ。
- ・地区住民の積極的な参加に向けたアプローチを行う。
- ・計画的な訓練の推進（連合自治会・単位自治会）を行う。
- ・火災時の伝達（周辺住民、消防本部）方法と初期消火習熟への訓練を行う。
- ・必要資機材の維持管理と緊急時に対応できるための定期的な訓練を実施する。
- ・土砂災害の前兆現象（異変）への感受性の向上のための訓練を行う。
- ・避難所運営体制を確立しておく。

(2) 災害時の取組

【地震発生時】

(ア) 災害発生当初の行動

- ・地震による死傷例の大半は家屋の倒壊やガラスの破片、落下物が原因であるため地震が発生したらまずとるべき行動は「まず低く」「頭を守り」「動かない」という3つのシェイクアウト行動をとる。
- ・避難時の電気器具（電源切断、ブレーカー等通電災害対策）、ガス器具の的確な対応をする。
- ・家族等の安否確認、屋内の安全確保を行う。
- ・ラジオ等の資機材による災害情報の取得を行う。

(イ) 安否報告・確認

- ・「無事ですカード」を活用する。
- ・安否不明者確認活動を行う

(ウ) 出火防止・初期消火

- ・火災時の伝達（周辺住民、消防本部）と初期消火を実施する。
- ・消化困難時の初期消火中止の判断と安全確保及び避難をする。

(エ) 救出・救護活動

- ・救出・救護の任務分担者を中心とした自治会・警察・消防との連携による活動を行う。
- ・緊急時には救出・救護に必要な資機材で的確に対応する。
- ・心臓がその機能を失った緊急事態においては一般住民でも使用できるAEDにより電気ショックを与え蘇生させる。

AED 設置場所：神戸小学校、神戸公民館、にいぼり歯科、神戸幼稚園、神戸保育園、JA えひめ未来めぐりセンター、釜之口警察官連絡所、伊曾乃神社

(オ) 避難誘導

- ・自治会指定避難場所への誘導と避難の促進を図る。
- ・避難者名簿に登録された自宅生活不可能者の災害発生時の避難所への避難誘導を行う。

【風水害・土砂災害発生時】

(ア) 発災前の行動・避難のタイミング

- ・ラジオ等による気象情報、災害情報の収集を行う。
- ・土砂災害の前兆現象（異変）を察知して早期の避難をする。

(イ) 避難

- ・水害、河川氾濫の危険予測時の早期避難を行う。（下記「警戒レベルと気象情報」参照）
- ・緊急時は落ち着いて即、指定避難場所へ避難する。
- ・常日頃から要避難者や要介護者など、近隣住民との意思疎通、コミュニケーションを確立していた対象者への支援を行う。

(ウ) 指定避難所の開設・運営

- ・行政とのタイアップを行う。
- ・避難所の的確な内部配置と設備の効果的な活用を行う。
- ・要介護者、要支援者に対して配慮する。
- ・避難所運営体制を的確に遂行する。

警戒レベルと防災気象情報（参考）

警戒レベル	状況	取るべき行動	自治体などの情報	気象庁などの情報
5	災害が発生または切迫	命の危険があり直ちに安全確保	緊急安全確保	大雨特別警報
レベル4までに必ず避難				
4	災害発生の恐れが高い	危険な場所から全員避難	避難指示 土砂災害警戒情報	土砂災害警戒情報
3	災害発生の恐れがある	危険な場所から高齢者らは避難	高齢者等避難	大雨・洪水警報
2	気象状況の悪化	自らの避難行動を確認		大雨・洪水注意報
1	今後、気象状況悪化の恐れがある	災害への心構えを高める		早期注意情報

(3) 要支援者（避難行動要支援者）等への支援

要支援者対策担当者を中心に常日頃から要支援者とのコミュニケーションを図っておく。

【支援の取組】

(ア) 要支援者、要介護者の把握と対応

- ・一人暮らしの高齢者などの要支援者を把握し、支援者（活動主体）や支援の範囲、支援体制を検討しておく。
- ・支援者（活動主体）には、民生児童委員等各種補助団体が連携し、平常時からの声かけや災害時の避難誘導訓練について周知や参加を呼びかける。

(イ) 避難するときの誘導

- ・災害時には各自治会の自治会長とも連携し、避難所等安全な場所への誘導など事態に即した対応をする。その際、要支援者に対しては気配りと思いやりの心を持って接する。

5 防災体制

(1) 防災体制

(ア) 避難場所等

○一時避難場所

- ・各自治会集会所、神戸公園、神戸小学校（グラウンド）

○指定避難場所

- ・神戸小学校（校舎、体育館）
- ・神戸公民館（建物）

○福祉避難所（近辺の公共施設）

- ・総合福祉センター（神拝）
- ・西条西部地域交流センター（氷見）

○民間避難所等の活用（災害連携協定の締結）

- ・緊急時における一時避難場所、避難滞在所
西条ゴルフ倶楽部、ZEN グローバルアカデミー、伊曾乃神社、保国寺、橋新宮神社、中四国クボタ西条営業所、
- ・福祉避難所
あおのクリニック
- ・その他（避難所等での資機材等の借用など）
高橋石油ガス、工藤グリーンテック

(2) 活動体制

(ア) 神戸校区自主防災会の体制

神戸校区連合自治会を中心に各種 16 団体からなる「各種団体連絡協議会」と神戸校区住民をもって構成している「神戸校区自主防災会」を立ち上げ防災体制を確立している。「神戸校区自主防災会」の役員は、会長 1 名、副会長 3 名、班長 2 名、副班長 6 名、班員（神戸防災士会会員及び連合自治会内自主防災委員会委員）で構成されている。

(14 ページ 参照)

(イ) 防災組織の編成

○災害発生時における避難前の任務

- ・ 情報収集・伝達
- ・ 避難誘導
- ・ 初期消火
- ・ 救出・救護

○災害発生時における避難後の任務

- ・ 給食・給水
- ・ 要支援者対策
- ・ 避難所設置・管理運営

(ウ) 防災組織の任務分担

任務	任務分担	平常時の役割	災害時の役割
災害発生時における避難前の任務	情報収集・伝達	防災組織の普及啓発	地域の情報集約・発信 市・避難所との情報伝達
	避難誘導	避難経路の点検	住民の避難誘導 避難所での避難者の整理
	初期消火	器具の整備・点検	初期消火、消防車の誘導、 安全パトロール
	救出・救護	器具の整備・点検	被災者・負傷者の救援救護
災害発生時における避難後の任務	給食・給水	調理用器具・非常食の点検	炊出し等の給食・給水活動の協力、必要物資の把握
	要支援者対策	要支援者の把握	要支援者の救援救護
	避難所設置・管理運営	器具の整備・点検	避難所の設置、適切な管理運営の協力

(3) 避難防災関連施設

各自治会が災害時に協力をお願いしている関連施設等との連携を図り、

避難場所の提供、土砂・廃材等除去のための資器材等の提供などの協力を依頼する。

(4) 防災備品等

公民館への避難を想定し、公民館に保管している防災・避難用資器材

簡易テント	15 張	間仕切り用、ワンタッチ、 パーソナル、着替え用
簡易ベッド	25	簡易ベッド 段ボールベッド
簡易トイレ	12	段ボールトイレ 5 非常用トイレ 7
マンホールトイレ	2	
ロールマット	36 枚	アルミ、絨毯
ブランケット	15 枚	
毛布	69 枚	
調理器具	7 5 5	カセットコンロ 鍋 やかん
ヘルメット	3	
ブルーシート	2 枚	
非常食	240 食	五目ご飯 40 おにぎり 120 梅がゆ 30 ラーメン 20 味噌汁 10 保存パン 20
飲料水	50 本	500ml
自家発電装置	2 台	ガソリン用
サークルライト	1	
サークルライト用三脚	1	
フェースシールド	6	コロナ対策用
体温計	1	コロナ対策用
災害救助工具セット	1	市から支給

6 災害への備え

(1) 防災知識の習得

(ア) 家族単位でのマイタイムラインの作成

- ・大雨や台風に備えて家族で話し合い、いつ何をするかをあらかじめマイタイムラインとして整理する。(15～27ページ参照)
- ・気象情報を基に洪水リスクを把握し、慌てずに逃げる準備を整えて、逃げ切れるタイミングで逃げ始める。

(イ) マイタイムライン使用時の心得

- ・あくまで行動の目安として認識する。
- ・気象情報や避難情報等をこまめに収集・確認する。
- ・収集・確認した情報を基に、マイタイムラインを参考にして、臨機応変に防災行動の実行を判断する。

(2) 防災訓練の実施

(ア) 訓練メニュー

毎年、地震・風水害土砂災害を想定、各種訓練を実施する。

内容	風水害・土砂災害対応	地震対応
避難時の訓練	<ul style="list-style-type: none">・情報収集・伝達訓練・避難訓練・避難路・避難場所確認訓練・避難経路上の危険個所の把握・話し合い・避難行動要支援者の把握	<ul style="list-style-type: none">・避難路・避難場所確認訓練・避難経路上の危険個所の把握・話し合い・避難行動要支援者の把握
避難後の訓練	<ul style="list-style-type: none">・避難所開設運営訓練・炊出し訓練・物資配給訓練	<ul style="list-style-type: none">・避難所開設運営訓練・炊出し訓練・物資配給訓練
発災後の初動行動の訓練		<ul style="list-style-type: none">・シェイクアウト訓練・初期消火訓練・応急救護訓練・防災資機材取扱い訓練

(3) 防災備品等の点検

- ・定期的に避難所設置訓練を行い、避難所備品が適切に利用できるかどうか点検を行い、災害時に備える。
- ・非常食や水の賞味期限が切れていないか定期的に点検を行う。

(4) 計画の見直し

- ・この計画については、継続して管理を行い、状況に応じて見直しを図っていく。
訓練の機会や日頃の話し合いを通じて、計画の見直しに取り組む。
地域の取り組みや体制の変化等に合わせて、必要な見直しを行う。
- ・見直した場合は、神戸校区自主防災会に、報告・協議する。
見直した内容については、説明会やチラシ等により各自治会自治会長等に報告する。

7 防災マップ

(1) 災害危険地域の把握 (28～29ページ参照)

- ・家屋倒壊等氾濫想定区域
加茂川左岸に接する住宅区域は、洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫が発生する恐れが高い区域と想定されている。
- ・土砂災害危険箇所
大久保地域、中寺地域の一部、津越地域、舟形地域の一部、山の下地域、東原地域の一部、原地域の一部、西原地域の一部、湯之谷地域それぞれの山際の地域は、土砂災害の恐れがある危険箇所と想定されている。
- ・土砂災害警戒区域
倉谷川に沿った舟形地域の一部、中寺地域の一部、津越地域の一部、原地域の一部、西原地域の一部及び大谷川に沿った西原地域の一部、棚林・西田地域の一部それぞれの山際の地域は、土砂災害の恐れがある警戒区域と想定されている。

8 資料一覧

- ① 神戸付近の活断層 (13ページ)
- ② 神戸校区自主防災会体制及び役員構成 (14ページ)
- ③ みんなでつくろう！マイ・タイムライン (15～27ページ)
- ④ 防災マップ (災害危険地域) (28～29ページ)

<参考資料>

神戸校区自主防災会の活動記録 (令和3年度) (30～34ページ)

(先進地視察研修、自主防災会発足式、危険区域のウォーキング、避難所設置訓練、防災研修会)

神戸付近の活断層

川上断層 約700～1300年間隔
0.02～2% M7.5
活断層



三波川変成岩帯

海底にあった玄武岩などの堆積物が、地下で変成を受けたもの。緑色片岩、黒色片岩、紅簾片岩などを含む。

岡村断層 約1600年間隔
0～2% M7.3
活断層

岡村断層



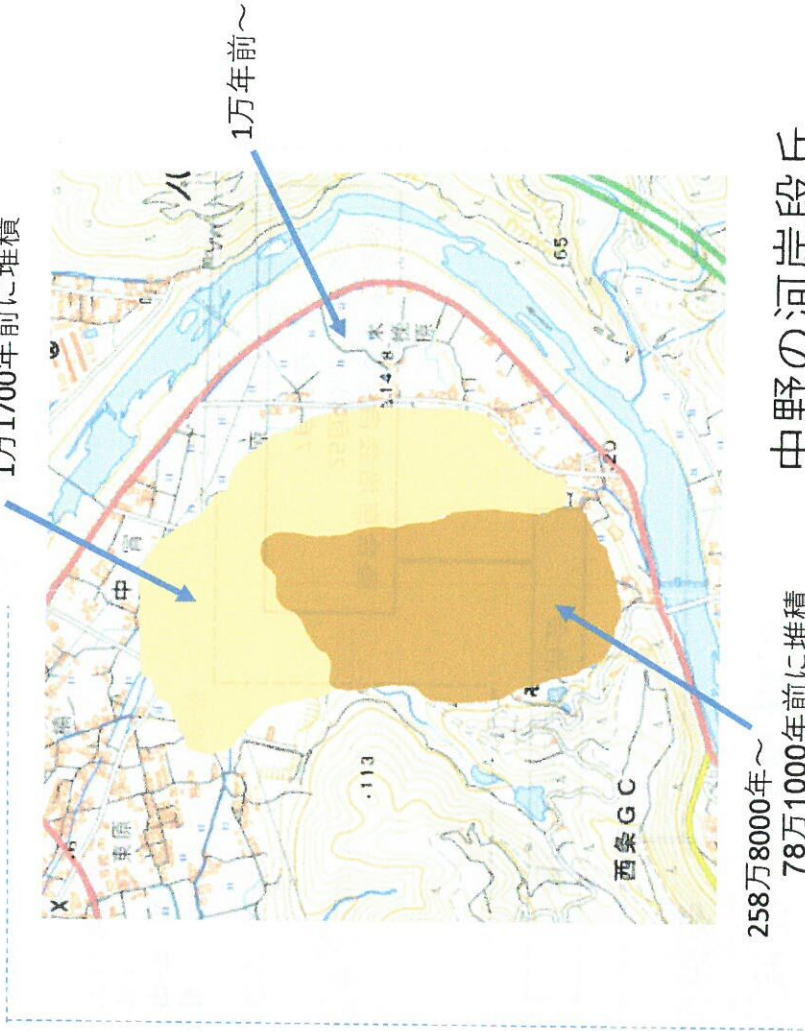
石錠断層 約1000～1500年間隔
0～2% M8
活断層

石錠断層



中央構造線

12万6000年前～
1万1700年前に堆積



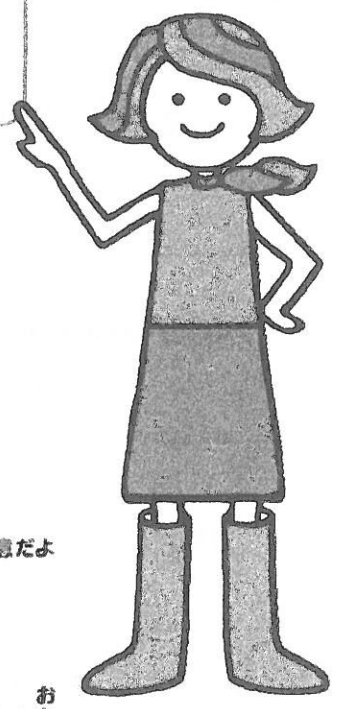
中野の河岸段丘

みんなで作ろう！ マイ・タイムライン

～マイ・タイムラインをつくるためのヒント集～

名前

家族で
考えてみよう！



3日前 情報収集

この台風
上陸するのかな？

雨が強くなって
きたけれど、
川の水位も上がってるかしら？

情報収集

雨が強くなって来たら、
田んぼや水路の見回りは
危険です。

避難注意情報

避難の準備

避難警戒情報

高齢者等避難

避難危険情報

避難所はここだね

足元に注意だよ

おちついて！

避難指示

避難の実施

氾濫発生

氾濫発生情報

みんなで作ろう！
マイ・タイムラインプロジェクト

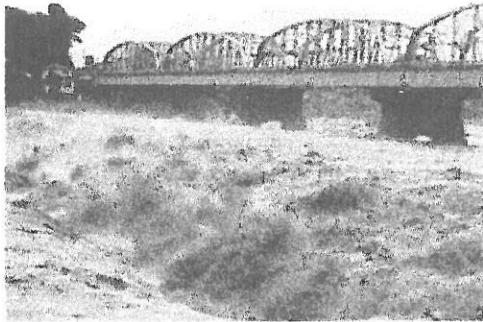
目次

項目	ページ
洪水と自分自身とをよく知れば、安全に逃げられる！	17
今後の天気を自分で確認してみよう！	18～19
避難を開始するまでに準備しておこう！	20～21
川の水位を自分で調べてみよう！	22～23
避難に役立つ情報を確認してみよう！	24～25



洪水と自分自身とをよく知れば、安全に逃げられる！

■川から水があふれる前に逃げる！！



大雨が降ると、川にたくさんの水が流れこみ、この水がさらに増えると川の水があふれ（氾濫）、街に流れ込んできます。

街に流れ込んできた水は、いきおいが強く、家が流されたりしますので、川から水があふれる前に安全な高い場所へ移動しておくことが大事です。

■マイ・タイムラインをつくろう！！

川から水があふれる前に安全な場所へ移動しておくためには、どのように川があふれるかを知り、それに応じた備えをしていく必要があります。

安全な場所への距離、移動するスピードは人それぞれですよね。自分自身の家族構成や生活環境を踏まえて、自分自身の洪水リスクを把握し、あわてずに逃げる準備を整えて、逃げ切れるタイミングで逃げ始めることが重要です。

いざというときにあわてずに行動するために、大雨が降る前から川の水があふれるまでの間に、いつ何をするのかをあらかじめマイ・タイムラインとして整理しましょう。

また、家族でよく話しあって、あなたの家のマイ・タイムラインをつくってみましょう。

